

仙台は牛タンと松島海岸 そして学生の成長を感じる旅

12 月 22 日から、仙台は東北学院大学で開催された「第 53 回 日本学生経済ゼミナール」に参加してきました。ゼミナールでは、毎年、この全国大会での発表をひとつのゴールとして、学習・取組みを進めています。今年も、「通信」9 月号で紹介したハローワーク調査の分析作業はむろんのこと、今大会で私達のゼミが参加した分科会のテーマ、すなわち「現代日本経済の現状と展望—旧システムからの脱却と新システムの構築」という、とんでもなく幅広い内容についての勉強を積み重ねてきました。その内容を具体的にあげると、財政、医療・年金（社会保障）、金融、少子・高齢化、格差、そして雇用・労働などなど多岐にわたります。私達が調査のテーマに設定した労働時間についてもそうですが、現在噴出している諸問題は、果たして「改革」で解決し得るのか？求められている真の対策とはいかなるものなのか？「労働経済」という自分達の本来の研究領域を超えて、そんなことを精一杯考えてきました。ハローワーク調査の結果などは別の機会に紹介するとして、この通信では、今大会のようすを旅日記風にまとめてみました。

■ガシガシと事前学習



大会前に行った予行演習の風景（北海学園にて）

「新聞・本を読むのダ」今年は何とこのセリフを言ったことか。今大会の分科会の対戦校（法政大学、近畿大学）が決まったものの、分科会のテーマが「現代日本経済の現状と展望—旧システムからの脱却と新システムの構築」という、じつに幅広いことだったことによる。いいかげんな勉強では当日の議論は無意味なものになってしまうぞ、ガシガシと新聞・本を読むのだ、そうはっばをかけてきた。とはいえ実際には、夏休みを終えるまでは、労働者調査や雇用・労働関連の勉強以外のことはできず、他領域の勉強については、後期が開始されてから（より正確に言えば、たしか大会の 2 ヶ月位前から）はじめた、と記憶している。もちろんそれは、学生らがサボっていたというわけではない。上記の作業だけでもう手一杯だったのだ。そういう意味では、残りの短い期間で、多岐にわたる他領域の勉強によくぞ着手できたもの

だ。ちょうど、雑誌『世界』で「脱「格差社会」の構想—「もう一つの日本」へ」という特集が行われていたことも、教材提供の点ではラッキーだった。

■いよいよ出発、ちょっとわくわく



いざ飛ばん、仙台へ（新千歳空港にて）

今大会の開催校（場所）は、仙台は東北学院大学。私達の参加する分科会は、23 日（土）の午前の部（9 時～13 時）に振り分けられた。現地入りしたのは前日の 22 日（金）だったが、4 コマ目の授業にちゃんと出席したいという真面目な（？）学生諸君の申し出に従い、出発自体は、4 コマ目の授業を終えてから、である。今回の仙台道中を記録に残しておくべくビデオカメラを首にかけデジカメを手にやる気満々の私と、若干ひきぎみの 9 人のゼミ生という一団が仙台のホテルに到着したのは 21 時頃。体力不足の私は、ゼミ生諸君の命運を祈り就寝したのに対して、ゼミ生諸君は、さっそく初日から、夜中

まで語り合っていた猛者もいたそう。気分はもう修学旅行のようではないか。やはり旅はよい。

■いざ東北学院大学へ

2 日目、分科会当日。朝から、腹が痛いという学生が発生し、「すわ、ノロか?!」と焦る一幕もあったが、それ以外は、もりもり朝食バイキングでエネルギーチャージ。仙台名物「笹かま」が美味だった。そして、いざ東北学院大学へ。



東北では時給 630 円でのアルバイト募集も
(途中のコンビニにて)

冷やっとして気持ちのよい仙台の朝の空気の中をてくてく歩いて、東北学院大学に到着。受付を済ませて分科会会場へ。徐々に高まる緊張感。ちなみに教員である私自身は、本来ならばオブザーバー参加ということで、会場の後ろではらはらどきどきしながらゼミ生の議論を見守ることになっているのだが、今回は、三大学から「議長団」の選出ができなかったため、「まあ見た目も実際に若いし(強調) 問題はないでしょう」ということで、教員でありながら議長のお役目をつとめることに。

■まずはジャブで様子見を

お互いの論文内容をきちんと理解することが大事と考え、まずは 20 分の時間で、自分達の論文の内容や強調したい点などを各校から報告してもらおう。三大学で構成された分科会ということもあり、「さて、議論をどう組み立てようかな」と考えながら、議長席で報告を聞く。同時に、記録係としてビデオカメラをまわし、写真を撮り、忙しい役目である。ちなみに私達のゼミの論文骨子(当日の報告の概要)を箇条書きにすると、次のとおりである。すなわち、「はじめに」では、今日のわが国雇用・労働問題に軽くふれ、「第一章 旧システムの揺らぎ」では、非

正規雇用の拡大を中心とする労働市場の変化、フルタイム男性労働者を中心とする長時間労働問題について整理し、続く「第二章 労働時間の実態」では、ハローワークでの調査で明らかになった、わが国の長時間労働の片鱗を報告し、「第三章 新システム:あるべき雇用・労働と保障の姿」では、第一章や第二章にまとめた実態に対していかなる対策が必要なのかを述べるものだった。とりわけ労働時間分野に関しては、経済界や政府が導入を主張しているホワイトカラー・エグゼンプションで果たして同分野の諸問題は解消し得るのか、学生なりの検討作業をふまえて、報告を行った。



高まる緊張感

■後半は三つのお題で討論

各大学からの報告を終え、大学間で事前に交わしていた質疑応答の再確認という作業を終えた時点で、予想していたことだが、すでに半分弱の時間が経過していた。三大学でのやりとりであり、かつ、扱っているテーマが様々な領域にわたっているために致し方ないことではあるのだが、せっかく仙台まできてたんたんとした報告だけで済ませるわけにはいかない。白熱した議論を行わなければと熱血系の血が騒ぐ。

というわけで、休憩に入る前に、議長から次の三つのお題を三大学に提示し、議論の準備をしておくよう伝えた。すなわちその一は、わが国の財政再建を図るうえでの金の集め方に関わる議論である。より具体的にいえば、財政再建が急務であり徹底した歳出削減が必要という認識はどの大学にも共通していた。だが、その上で、法政・近畿が消費税の税率アップを主張しているのに対して、北海学園は、消費税は逆進性が強く低所得者層にとって高負担になるので反対!としている点が、論点として面白いと考えたのである。

提示したその二は、雇用・労働に関する政策について、である。すなわち、増大する非正規への対応など雇用・労働問題への対策を様々に打ち出していたのは三大学に共通していた（もちろん、フリーター、ニート対策という言葉を使うなど、現状認識には差がみられたが）。しかしながら各大学が主張したそういう対策は、小泉首相のもとで加速し安倍首相に引き継がれ「労働ビッグバン」という名で実現が目指されている雇用・労働政策の中身とは抵触するものだった。なぜなら、この間推進されてきたのは、大雑把に言えば、雇用・労働分野の規制の縮小あるいは廃止だからだ。三大学ともいろいろ政策を打ち出しているようだが、では上記のような政策動向をどう考えるのか、そんな感じでやや挑発気味に尋ねてみた。

最後は、年金や医療など社会保障について、とりわけ、どの大学も扱っている年金制度をめぐって、である。すなわち、職域によって分かれている複雑な年金制度の一元化が必要であるという主張や、一定の生活を保障する最低限の年金水準の設定（引き上げ）が必要であるという主張は、三大学に共通し、全くそのとおりなのだが、その実現のための具体的な道筋や財源確保をどうするかという点などは、各大学とも、十分に提示されていなかったように感じられたので、議論をうながしてみた。



議論するって意外に難しい

「助言講師」をつとめていただいた先生からの助言や解説等もあって、後半の議論では、各大学の主張の違いが明らかになり、議論も盛り上がってきた。司会進行しな

がら聞いているこちらとしてもじつに楽しめた。この議論の中で、他大学の学生の理路整然とした主張に「同じ学生なのにスゴイ！」と感じた（ゼミ生の感想）のは、とても貴重な経験だったと思う。後半の議論の詳細は省くが、分科会の最後に学生一人ひとりに発言してもらった感想からも、今回の分科会が非常に有意義なものになったことがうかがえた。時間も、30分も超過したし。

■松島海岸へ向かえ

大いに学んだ後は大いに遊ぶ、というゼミのモットーに従い、大会の余韻にひたりながら、一路、JRで松島海岸へ向かう。当初の企画立案時には、「絶対、青葉城！」と主張していた（だだをこねていた）のだが、その後、日本の三大風景のひとつである、松島海岸の写真をみて、あっさり前言撤回。松島海岸へ。



絶景かな、絶景かな

松島海岸では、船をチャーターし、20分コースで松島海岸をひとまわりしていただく。海上の風は冷たいが、風をきって爆走する船の楽しいこと。



写真家をきどってパシャリ

おまけ写真三枚

さて、ゼミ生諸君は、大会までの期間でまだまだ努力はできたはずであるし、「完成品」といえるような代物をつくりあげたわけでもない（こう、素直に褒めないのがポイント）。しかしながら、炎天下の夏には、2日間で約200人の求職者からの聞き取りを通じて、この分野で起きている問題にせまるという機会を得た。さらに後期には、「労働経済」という領域を超えて、学習を積み重ねてきた。十分評価に値しよう。議長役を務めた手前、大会当日に言うのははばかれたが、提起した政策の根拠に実証研究で得た成果を据えたのは大事なことだと思う。

仙台の夜は牛タン定食も食べたし、光のページェントも見た。短い滞在だったが、仙台満喫の旅であった。現在、道中の写真や映像を整理しているところだが、夜の飲み会時の記録は、ウィニーで流出したらヤバイ代物もみられ、いささか暴走したような感もあるが、不問に付すこととしたい。

この1年間の努力に乾杯



大変よい顔です（船上にて）



その1

松島海岸、船上にてタイタニックパフォーマンス
但し、触先に立つのも後ろから抱きとめるのもオトコなり



その2

←オレが写ってない!!という抗議のパフォーマンス
ゴメン!



その3

光のページェント!

全国大会の紹介ビデオは、乞うご期待。